



# ミンガラバ

認定 NPO法人  
日本・ミャンマー  
医療人育成支援協会  
〒700-0815  
岡山市北区野田屋町2-4-18  
TEL: 086-224-0102  
FAX: 086-221-2554  
URL: http://www.mjcp.or.jp

## 今年度事業に1千万円

### コロナ収束に備え予算化

協会の今年度の事業計画と、それを実施する予算が決まった。新型コロナウイルスの影響で、現在、協会の活動の多くが中断、延期されたまま。そんな中、流行収束の見通しが立てばすぐに再開できるように予算化した。(裏面に予算の収支表)

例年、7月に総会を開き、向こう1年間の事業計画と予算案を承認してもらっていた。それがコロナ禍で今年は開けず、賛助会員、理事を含めた全会員355人に往復はがきで賛否を聞いた結果、返事の

あつた全員から承認を得た。2020年度(20年7月〜21年6月)の予算は一般、特別会計を合わせて1940万円。このうち1050万円が事業費にあてられる。新事業はこれまで進めてきた支援活動の継続が中心で、ミャンマーでの講演、手術指導、検診のほか、若い医療関係者5、6人を日本へ研修に招く予定。古くなった寄付クリニックの建物補修や備品補給を進める。

この事業を推進するJICA(国際協力機構)、講師を派遣している臨床工芸士学会、事務局担当の岡山大学、協会とミャンマー保健スポーツ省、ヤンゴン医療技術大学などの間でインターネット会議を開き、対応を協議している。

### コロナ第2波のミャンマー

ミャンマーではこのところ、新型コロナウイルス患者が増え続け、9月には国内感染者が数百人という日もあった。その原因と対策について、タンセイン国民健康財団理事長の報告です。

### 地域に応じた注意呼びかけ

#### タンセイン国民健康財団理事長

ミャンマーは6月の雨期に入ってからコロナ禍の第2波に突入した。経済的な必要に応じて人々は日常の活動に戻ったが、身体的な距離を保つことが更に重要になっている。最初の患者は3月23日に

発生。水祭りや多くの宗教的なイベントはキャンセルとなり、自宅待機期間も設定された。国内封鎖も行われ、国内航空も止まった。5月末になると新規発生はほぼゼロとなり、新しい患者は外国からの帰国者だけとなっていた。高等学校は再開し、多くの市場も開いた。雨季の今はインフルエンザやデング熱の季節でもあり、警戒を怠ってはならない。しかし、貧困層には経済的影響はかなり大きい。多くの仕事はなくなり、季節労働者は動けなくなり、投資も滞っている。政府は国民の健康を守りながら経済を活性化しなければならぬ、という非常に難しい取組に迫られている。また、11月8日投票の総選挙も迫っており、政治的な配慮も必要になっている。

### 口腔がん検診 岡山大SDGsの事例に



岡山大学病院口腔外科(再建系) 水川展吉 講師

口腔がんの検診をする水川講師。右側はスーシューイン元ヤンゴン歯科大学教授ニャウンゾン

岡山大学病院頭頸部がんセンターと一緒に仕事をしている協会理事の木股敬裕教授(形成外科)から、ミャンマー医学研究大会での講演の話をしていただき、2013年1月に講演しました。その後、何か歯科的貢献ができないかと模索していたところ、ミャンマーが嘔みたばこの影響で、口腔がんが全がんのうち男性で6位、女性で10位の多発地帯であることがわかり、早期発見と嘔みたばこの啓蒙活動には検診がきわめて有効ではないかという発想にいたりました。

岡田茂理事長に提案したら、ミャンマー側と話をしよう、ということになり、15年1月、ミャンマー医学研究大会の際に話合いがもたれました。岡田理事長、木股教授と私、ミャンマー側からスーシューイン先生(元ヤンゴン歯科大学教授)らが出席し、共同で口腔がん検診をすることが決定しました。

第1回は15年、パアンで行われ、岡山大学病院口腔外科から飯田征二教授と私が参加、第2回は16年モラマインで行われた。1、2回の検診結果は、嘔みたばこと喫煙者のハイリスク群における口腔がん発見率(咽頭がんを含む)は2・9%に達し、こ

のことを英文誌に報告。第3回は17年にタウンジー、第4回は18年バゴ、第5回は20年2月にチャウンゾンで実施。毎回、口腔がんが発見されています。私は岡山県の口腔がん検診に関わっていますが、この15年間に明らかかな口腔がんはわずか1名です。日本における一般人の口腔がん発見率が0・1%で、ミャンマーの発見率は驚異的なのです。嘔みたばこは、習慣といつては済まされぬ、この国では非常に重要な問題です。

私たちの国民健康財団は、国民の間ではマスクの使用、体温測定、手洗いはかなり行き渡っており、人々の必要性を理解している。しかし、身体的、社会的な距離を保つ習慣はあまり守られていない。特に貧困層や村落がそうだ。距離を保つことの難しさはミャンマーの伝統的文化の中にもその理由がある。親類や友達、同僚と距離を保ちながら大声で話すのは気づまりだ。上下関係のつきりしている状況では静かに話すことが要求されている。個人の空間という考え方は東アジアや西洋ほどはつきりとしていない。人々はお互いに接していることに慣れていくのだ。都市部では、とくに低所得層においては、距離をとることは難しい。安価な交通手段の列車やバスは鈴なりに、市場や工場のような人ごみの中の仕事が多い。村落となると事情は少し異なってくる。広い空間での仕事は空気の流れもよいし、人々の距離も離れている。ただ、村落での集会和結婚式は感染のリスクが高い。

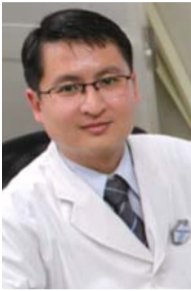
私たちの国民健康財団は保健・スポーツ省とタイアップして「コロナに打ち勝とう」キャンペーンに参加している。どのような注意が必要か、の呼びかけが大切となってきた。雨期では身体的な距離を保つことが特に大切だ。都市部と村落部のそれぞれの地域に応じた、分かりやすく説得力のあるメッセージを伝えることがカギになっている。



協会の発足から15年近く。この間、協会などの招きで来日、岡山を中心に大学や病院で研究、研修したミャンマーの医療関係者は約150人。その中から3人に近況を寄稿してもらった。

ミャンマー国立ネピドー総合病院核医学部門部長

### ソウミヤウイン 医師 (2009年8~12月 岡山大学で研修)



私は核医学専門医としての仕事を続けています。岡山大学医学部・核医学教室で学んだ知識に助けられて、帰国翌年の10年、ネピドー総合病院に核医学部門を立ち上げました。14年にはこの国で初めての核医学画像診断機器であるSPECT/CT導入に関

また病院内に臨床腫瘍科の同僚と12年にがん登録組織を立ち上げ、13年にはが

ミャンマーと岡山の人々の良い関係が持続的に向上していきます。心から祈っています。

## 岡山と共同研究ができれば

私は核医学専門医としての仕事を続けています。

与しました。日常の仕事は外来患者の診察、機器による診断、放射線ヨードを用いての治療、教育のため資料作りや各種の報告書作成などです。治療に当たっての知識と能力を高めるためにIAEA(国際原子力機関)や他の国際的な機関からの資料でも勉強しています。

ん登録をデータベース化。さらに内容の向上と一貫性を保つために新しいデータベースを導入しました。

近い将来、ネピドーのがんの発生と死亡率について、ミャンマー全土の疫学調査に先駆けて発表します。実は日本の国立がんセンターがネピドーのがん住民登録についての技術的支援を行ってくれています。岡山の病院ともがんの疫学研究を共同で行えればよいと思います。

ヤンゴン国立中央婦人科病院病理部長

### ゲーワミン 医師 (2007年1~3月 岡山大などで研修)



私が研修を受けたのは子宮がんの検診のための勉強でした。日本に行くまでは僅かな知識しか持っていませんでしたが、3カ月間に私は細胞診による診断だけでなく細胞診の染色法の詳しい方法や染色液の作り方まで学びました。岡山大学のほかに岡山済生会病院や岡山協立病院でも勉強しました。済生会の濱家一雄先生や協立の豊田

一度、岡山で一段上の研修を受けたいと思います。

## 子宮がん検診のリーダーです

博先生らは今も懐かしく思い出します。帰国後、中部ミャンマーにある国立病院に派遣され、日本で学んだことを若い病理医や技師に教えまし

じ職場のイーイーピョー トウエ医師も去年、岡山で研修を受けて帰ってから見違えるほどの変化を見せています。細胞診の診断力が向上し、臓器の切り出しや組織診断も随分上達し、私が彼女から学ぶ事も多くなっています。

た。翌08年にこの場所初めて子宮がん検診クリニックを始めました。協会の岡田茂先生はガラス器具、試薬、撮影装置のついた顕微鏡などを送って下さいました。

私は1日に少なくとも40から50枚の細胞診のスライドを診断し、子宮がんの細胞診に関しては多くの病理医が意見を求められます。婦人科の医師たちも私の診断を信頼してくれます。これも岡山での研修のお陰と感謝しています。

### 協会の2020年度予算

費目	予算額		説明
	一般会計	特別会計	
繰越金	4,800,190	4,256,706	前年度より繰越
会費・入会金	1,850,000	0	会費170人、入会金10人 賛助会費10人 役員運営協力金20人
寄付金	3,000,000	3,000,000	一般寄付金、運営協力費
助成金	2,500,000	0	永山積善会、渋谷育英会、その他
雑収入	10,000	0	預金利子、協賛金等
合計	12,160,190	7,256,706	

費目	予算額		説明
	一般会計	特別会計	
事業費	5,500,000	5,000,000	<b>一般会計</b> ミャンマー医療人の研修・研究支援に関する事業 3,250,000 公的機関と協力して支援する事業 200,000 ミャンマーにおける医療実践を支援する事業 500,000 組織活動の公表に関する事業 800,000 地代家賃 750,000 <b>特別会計</b> あかね基金活動費 2,000,000、MAJA-岡山、水害援助、クリニック寄付 3,000,000
会議費	100,000	0	総会懇親会・役員会等
旅費	1,500,000	0	出張旅費
光熱水費	200,000	0	電気、ガス、水道代等
通信運搬費	300,000	0	電話代・インターネット使用料等
消耗品費	200,000	0	事務用品
印刷費	40,000	0	総会資料印刷代
諸謝費	50,000	0	講演等謝礼
負担金支出	5,000	0	岡山県国際団体協議会等負担金
支払手数料	30,000	0	郵便振替手数料等
委託料	400,000	0	会計事務委託、決算書作成委託料
賃貸契約料	750,000	0	賃貸契約に基づく固定資産税
予備費	3,585,190	2,256,706	
合計	12,160,190	7,256,706	

## 全大学の研究大会で講演

ヤンゴン第二医科大学薬理学教室准教授

### ソウソウトウエ 医師 (2015年~19年 岡山大学博士課程)

今年6月22日、ミャンマーの全164大学の研究者が集まって、Zoom使用による大学研究大会が開催されました。その中で数千人が参加した最も華々しいプログラムは「我が国の繁栄に

賞を受けたのです。一方で岡山での素晴らしい日々がすでに過ぎ去ったことを淋しく思っています。機会があればもう一度、是非訪問したいです。日本は季節にかかわらずいつでも訪ねたい場所です。日本文化は季節の移り変わりに映えます。私は季節ごとの食べ物や催し物、とく

これら4年間、貴重な研究経験を与えてくださった岡山大学医学部薬理学教室の西堀正洋教授らと、いろいろ支えてくださった人たちのお陰と心からの感謝をささげました。

に桜の咲いた時期とか、紅葉の色の移り変わり、藤の花の満開時の宴会をもう一度味わいたいです。新型コロナウイルスの波が世界中に広がっています。私たちが新しい生活スタイルを身につけなければなりません。日本の皆様も安全に気を付けられ、健康であられますように。



そのころ、もう一つの朗報がありました。私の博士論文が岡山医学会賞の奨励

### 編集後記

コロナ禍で協会の活動がストップし、開店休業状態です。毎号、さまざまな活動を紹介してきたミンガラパーも、今回ばかりは材料不足。いっそ休刊にしようか、と考えたりしました。総会は開けなかったが、向こう1年間の予算が決まりました。これは皆様にきちんとお伝えしたい。それに5人の方に寄稿をお願いし、できあがったのがこの紙面です。それにしても厄介きわるコロナです。(西崎)